

## 6. 増養殖技術研究費

### 1) 養殖アユ病魚から分離したショートモナス属細菌の性状および病原性

二宮浩司

【背景】近年、アユ種苗の歩留まりの低下が大きな問題となっており、その原因の一つとして、冷水病とともにショートモナス病が関与していることがわかっている。

【目的】ショートモナス病原因菌については不明な点が多い。（原因菌が單一種かどうか。分類学的な位置等。）そのため、分離菌株の性状および病原性を調査した。

#### 【成果概要】－分離菌株の性状（表1）－

1. 県内の11養魚場の病魚から分離したショートモナス属細菌20株に対して、アピ20NE（腸内細菌以外のグラム陰性桿菌用簡易同定キット）を用いて、性状試験を行うとともに、平成5年度に当場が分離した菌株を免疫原とする抗血清（東大農学部作製）を使用して凝集反応を調べた。

2. 20菌株中18菌株は、糖の同化能に若干の違いがあったものの、ほぼ同じ性状を示した。また、性状試験の結果がほぼ同一と考えられた15菌株は凝集反応がすべて陽性であったが、他の2株は陰性であった。

3. 以上から、県内のショートモナス病を引き起こしているショートモナス属細菌は、ほぼ同一タイプのものであると考えられた。

#### －病原性－

4. ショートモナス属細菌の病原性を調べるため、1魚体あたり $3.8 \times 10^7$ CFU、 $1.9 \times 10^5$ CFU、 $1.9 \times 10^8$ CFUの菌量をアユの腹腔内に接種した。

5.  $3.8 \times 10^7$ CFUでは翌日にすべてがへい死。 $1.9 \times 10^5$ CFUでは、4日目までに100%へい死。 $1.9 \times 10^8$ CFUでは8日目までに60%へい死した。へい死魚は、出血性の腹水貯溜や肛門の拡張・発赤を起こしており、ショートモナス病の典型的な症状が再現された。また、へい死魚すべてからショートモナス属細菌（アユ病魚由来株）が回収されたため、病原性が確認された。

【成果の活用】本病に対する治療予防試験の基礎データが得られた。

表1. アユ病魚から分離したショートモナス属細菌の性状試験結果（アビ20NE使用）

試験項目	菌株名	#17°1			#17°2			#17°3			#17°1			#17°2			#17°3		
		950106 A	950208 B	950109 C	950110 C	950126 C	950214 C	950314 C	950127 D	950330 D	950710 E	950130 E	950224 E	950720 E	941226 F	941229 F	950831 I	950926 J	950927 K
NO.	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
TRP	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
GLU	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ADH	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
URE	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ESC	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
GEL	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
PNG	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
GLU	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ARA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
MNE	+/-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
MAN	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
NAG	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
NAL	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
GNT	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
CAP	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ADI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
MLT	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
CIT	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
PAC	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
OX	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
性状試験結果	①	②	※	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	※	※	※	※	
抗血清凝集能(注)	+	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	

① : Pseudomonas putida Kid=88.7 T=0.73 Ps. fluorescens Kid=9.8 T=0.61

② : Ps. fluorescens Kid=99.6 T=0.78

③ : Ps. putida Kid=82.4 T=0.75 Ps. fluorescens Kid=16.6 T=0.67

④ : Ps. fluorescens Kid=88.7 T=0.73 ⑤ : Ps. mendocina Kid=99.1 T=1.00

※ : 該当なし

A : A巻魚場 B : B巻魚場 C : C巻魚場 D : D巻魚場 E : E巻魚場 F : F巻魚場 G : G巻魚場 H : H巻魚場 I : I巻魚場 J : J巻魚場 K : K巻魚場

NO. (硝酸塗過元) 、 TRP (イソトープ生産) 、 GLU ( $\beta$ -ダラシドガーナ) 、 ADH (TGA) 分解) 、 URE (尿素分解)ESC (エカルパン解) 、 GEL ( $\beta$ -ダラシドガーナ) 、 PNG ( $\beta$ -ダラシドガーナ) 、 GNT (D-マニト- $D$ -ガラミン同化)NAL (マヌカ糖同化) 、 GNT ( $\beta$ -D-ガラクトリル糖同化) 、 CAP ( $\alpha$ -D-ガラクト糖同化) 、 ADI ( $\beta$ -D-ガラクト糖同化)

MLT (dL-ソルビト糖同化) 、 CIT (フェヌカルトム糖同化) 、 PAC (フェヌカルトム糖同化) 、 OX (オキサザビテ試験)

(注) 平成5年度に水試が分離した菌株を免疫原とする抗血清を使用し、スライド凝集反応で確認。